【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第７区分
【発行日】平成22年11月4日(2010.11.4)

【公開番号】特開2009-120385(P2009-120385A)
【公開日】平成21年6月4日(2009.6.4)
【年通号数】公開・登録公報2009-022
【出願番号】特願2007-298900(P2007-298900)
【国際特許分類】
Ｂ６５Ｆ　1/00　(2006.01)
Ｂ６５Ｆ　1/16　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｂ６５Ｆ　1/00　Ａ
Ｂ６５Ｆ　1/16

【手続補正書】
【提出日】平成22年9月16日(2010.9.16)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１１】
本発明の好ましい実施の形態においては、上記箱状本体は、上記フレームを取り出すための開閉自在の扉を備えている。さらに好ましくは、上記箱状本体は、上記扉を閉じた状態において、上記扉と直交する一対の側面を有しており、上記一対の側面には上記扉に向かって延びる一対のレールが設けられており、上記一対のレールによって上記フレームを支持している。このような構成によれば、上記扉を開き、上記レールに沿って上記フレームを上記箱状本体から引っ張り出すことにより、容易かつ迅速に上記フレームを上記箱状本体から分離することができる。このため、上記ストッパーを容易かつ迅速に洗浄することが可能となる。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２０】
図７は、フレーム３０を平面図で示している。フレーム３０は、たとえばステンレス製であり、略矩形状の枠材３１、枠材３１の中央部を横断する棒材３２、棒材３２と直交する方向に延びる４本の支持材３３、所定径の孔部を有する１２個の軸固定板３４、および、ストッパー４０を揺動可能に支持するための４本の支軸３５を備えている。このフレーム３０は、枠材３１の一方の端縁をレール２２２に嵌め込み、他方の端縁をレール２３２に嵌め込むことにより、これらのレール２２２，２３２に保持される。棒材３２は、枠材３１の一方の端縁と他方の端縁とを繋ぐように設けられている。支持材３３は、枠材３１の一方の端縁寄りの位置に１本、他方の端縁寄りの位置に１本、その中間に並ぶように２本設けられている。軸固定板３４は、支軸３５を保持するために枠材３１および棒材３２に設けられている。一本の支軸３５に対して一列に並ぶ３個の軸固定板３４が設けられている。この１本の支軸３５を保持する３個の軸固定板３４のうち２つは枠材３１に設けられており、残りの１つは棒材３２に設けられている。支軸３５は、棒材３２と直交する方向に沿って並ぶ３個の軸固定板３４の孔部に挿通されており、その両端がカシメによって

固定されている。本実施形態では、一本の支軸３５が２個のストッパー４０を保持しており、フレーム３０は８個のストッパー４０を保持している。このフレーム３０はレール２２２，２３２の長手方向に沿ってスライド可能となっている。図６には、フレーム３０を扉２４から取り出す様子を図３に示すVI-VI線に沿う断面図で示している。

【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２７】
上記のような使用済容器回収箱Ａに使用済容器Ｃを入れる際には、まず、使用済容器Ｃ内の残汁を残汁回収箱Ｂに捨ててから、使用済容器Ｃを投入口１１１に投入する。図４および図５に示すように、使用済容器Ｃは、たとえば飲み口が上を向くように、順次投入される。飲み口を上にして順次投げ入れられる使用済容器Ｃは、後に投げ入れられたものが、先に投げ入れられたものに入り、筒状ガイド１１内でストッパー４０上に積み重ねられる。筒状ガイド１１内で積み重ねられた使用済容器Ｃがたとえば１０個を越えると、ストッパー４０が傾き、使用済容器Ｃが１０個重なった状態で回収袋５０へ落下して収容される。使用済容器Ｃが落下するとストッパー４０は再び通常の略水平状態に戻り、再び投入口１１１から投げ入れられる使用済容器Ｃの落下を防ぐ。このようにして、回収袋５０には、１０個ごとに纏まった使用済容器Ｃの塊が順次収容される。回収袋５０内に収容される使用済容器Ｃが重なった状態となり、１個当たりが占める容積が小さくなるため、使用済容器Ｃをそのまま回収袋５０に入れる場合に比べてより多くの使用済容器Ｃを回収袋５０内に収容することができる。

【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３０】
さらに本実施形態では、使用済容器回収箱Ａは、上述したように、扉２４を開き、袋用フレーム６０をレール２２３，２３３に沿って引き出すことによって回収袋５０を箱状本体２０から容易に引き出すことができる。このため、回収袋５０が一杯になったときなどに、回収袋５０の取り替えを容易に行うことができる。

【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３２】
またさらに、本実施形態では、支持材３３によってストッパー４０の揺動が制限されており、第１の端部４１１が略水平状態より上方に移動しない。このため、フレーム３０をレール２２２，２３２に沿って移動させる際にストッパー４０と筒状ガイド１１とがぶつかることが無く、スムーズに移動させることができる。

【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３５】
Ａ　　使用済容器回収箱

Ｂ	残汁回収箱
Ｃ	使用済容器
１０	天井板
１１	筒状ガイド
１２	天板
１３	外縁部
２０	箱状本体
２１	上部フレーム
２２，２３	側面板
２４	扉
２５	背面板
２６	底面板
２７	キャスター
３０	フレーム
３１	枠材
３２	棒材
３３	支持材
３４	軸固定板
３５	支軸
４０	ストッパー
４１	板状部材
４２	円筒部材
４３	錘
５０	回収袋
６０	袋用フレーム
６１	突起片
１１１	投入口
２２１，２３１	支持部材
２２２，２３２	レール
２２３，２３３	レール
４１１	第１の端部
４１２	第２の端部